

板橋区行政評価委員会（令和５年度第３回）

日時 令和５年８月２日（水）

15時00分～16時00分

場所 区役所 11階 第２委員会室

次 第

1 開 会

2 議 題

今年度外部評価の総括について

3 閉 会

【参考資料】

- ・ 令和５年度板橋区行政評価委員会報告書（案）

令和5年度
板橋区行政評価委員会
報 告 書 (案)

令和5年8月2日
板橋区行政評価委員会

目 次

1	外部評価結果に対する「行政評価委員長」総評	1
2	外部評価の目的	4
3	外部評価活動	4
	(1) グループ編成と役割分担	4
	(2) 評価対象施策の選定	4
	(3) 評価対象関連施設の視察	4
	(4) 公開ヒアリングの実施	4
4	外部評価の視点	5
5	評価評語及び改善の方向性	5
6	外部評価結果	5
	(1) 外部評価対象の施策	5
	(2) 外部評価結果の決定	5
	(3) 外部評価結果について	6
7	外部評価結果（施策別）	8
8	外部評価結果に対する委員の所見	16

<参考資料>

1	行政評価委員名簿	22
2	行政評価委員会等開催状況	22

1 外部評価結果に対する「行政評価委員長」総評

令和5年度の板橋区行政評価委員会による外部評価を終了した。過去の行政評価委員会は新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度は中止、令和3年度も外部評価対象関連施設の視察を実施できなかったが、本年度は視察も実現し、昨年に続き完全な私たちでの行政評価委員会の開催となった。今年度の行政評価は、委員が改選され、新たなメンバーとして学識経験者委員4名と公募区民委員3名が3つのグループに分かれ、合計8施策、84の事務事業を対象に外部評価を実施した。

板橋区ではこれまで基本構想の実現に向けて、板橋区基本計画2025（以下「基本計画」）に基づく施策を推進してきているが、板橋区では、基本計画策定以降、新型コロナウイルス感染症の伝播をはじめとする区を取り巻く社会・経済環境の大きな変化を受けて、令和3年度に基本計画のアクションプログラムの改定を1年前倒しで行っている。「いたばし No.1 実現プラン 2025」では、ポストコロナ時代の「新たな日常」を見据えた重点戦略が掲げられている。重点戦略が目指すビジョンとしては、誰一人取り残さない安心・安全なまち（SDGs 戦略ビジョン）、新しい技術や価値が暮らしを豊かにするまち（DX 戦略ビジョン）、板橋の魅力が定住と交流を促すまち（ブランド戦略ビジョン）の3つの柱を掲げ、施策の展開を図っていくこととしている。板橋区における現在の行政評価が、基本計画のマネジメントツールであるという前提のもと、当委員会による外部評価は、基本計画の全68施策に対し、平成29年度から一回り評価するものとして、令和4年度終了時点で68施策のうち60施策が終了しており、本年度の外部評価は、残りの8施策を対象に実施された。本年度は教育委員会所管の対象施策が中心であり、「教育委員会が行う点検・評価」との連携を図るため、教育委員会の学識経験者2名を交えて、現地視察及びヒアリングを行なった。外部評価は施策に焦点を当てたものであり、教育委員会が行う点検・評価は個別事業を対象とするものであったが、施策と事務事業は密接に関係しているものであり、教育分野の専門家である学識経験者と施設の視察、ヒアリングを行ったことは、評価の視点を確認共有する意味で非常に意義があったように思う。

これは外部評価全体にいえることであるが、行政評価委員の専門分野は限られており、全ての評価施策に対応できている訳ではない。その為、委員の専門分野（関連分野を含む）以外の施策の評価を担当した場合、一般常識以上にその施策の背景、取組の現状等を理解できているとは限らず、提供資料で事前に学習したとしても、理解に偏りがあり、その評価に対して自信を持てない場合もあるように思われる。毎年、評価対象となる施策が変わることを考えると行政評価委員を増やすことはあまり現実的ではないが、その年度の評価対象施策に合わせて、専門分野の専門家を施策単位でアドバイザー的（ゲスト的）に参加させることも一つのアイデアではないだろうか。

まず、委員として私共のグループが担当した「教育施策の総合的な推進」、「確かな学力の向上・定着と質の高い教育の推進」、「世代を超えた学習・学び合う活動の推進」及び「魅力ある学校づくり」の4施策の外部評価について概括してみたい。これらは基本施策「魅力ある学び支援」を構成する施策であるが、学校教育から社会教育までを含み幅が広い。

「教育施策の総合的な推進」については、教育行政を担う組織や運営において、教育委員長と教育長が一本化され、新しいかたちの教育長が設置されたこと、区長部局と教育委員会事務局との間で相互に関係する施策のすり合わせや意見交換の場として総合教育会議が設けられていることは、板橋区における教育行政の大きな変革であり、「教育施策の総合的な推進」の原動力となることが期待できる。この変革が今後どのように、区民誰もが「いつでもどこでも学べる」と思える教育環境が整備されたまち「教育の板橋」の実現

に繋がるか、その展望が示されることで、始めてこの施策のアウトカムイメージを示すことになるのではないだろうか。

次いで「確かな学力の向上・定着と質の高い教育の推進」について、質の高い教育は「板橋区授業スタンダード」に基づいた授業が定着することが基本であるが、それだけでは十分ではないだろう。生徒一人一人の個性や能力に合わせた教育の多様性も求められるであろう。それに応えるためには、教員の質の向上はもとより、これからは自学自習を支援するICTの活用も大事な要素である。また、小中学校9年間を通して、学校運営や教育活動を家庭、学校、地域が連携支援する板橋区のコミュニティ・スクールは、地域人材を活用した教育活動の充実を図り、子どもたちの豊かな学びの実現に繋げようとする板橋区の特徴ある取組であり、こうした取組を評価する施策指標があっても良いだろう。

「世代を超えた学習・学び合う活動の推進」は、中高生を中心とした青少年の居場所づくりとライフステージに応じた生涯学習の機会の充実を目指すものである。今回もこれら施策の関連施設の視察を行なったが、施設の現況、施設における活動状況を直接確認することができた。特に今回視察対象となった施設においては、施設や設備の老朽化が著しく課題も多いが、指定管理者を含む現場の担当者が自らの創意工夫によってそれを補い、担当事業に強い責任感を持って取り組んでおり、生涯学習の機会の充実が図られていることが確認できた。ただ施設や設備の老朽化や陳腐化に対する対応は現場担当者の思いだけでは限界があり、財政的に厳しい環境の中で施設・設備の改修、更新に対する方策が求められることも実感した。

「魅力ある学校づくり」については、近年新築された中学校を視察する機会があったが、これからの時代に求められる教育方法に対応した施設整備が進められていることが確認できた。

私自身が担当しなかった施策については他の委員の皆さんの所見に譲るが、ここで外部評価全体について感じたことを列記してみたい。ただその感想の幾つかについては、過去の外部評価において感じたことと重なるところが多いため、一部の感想を繰り返すことをご容赦頂きたい。

行政評価制度が区内部で定着してきており、職員の業務に対する意欲の向上に繋がっていることを感じた。一方で、各担当所管課は眼前の事業の目標達成に向けて注力しており、教育も例外でなく施策を取り巻く社会・経済環境の目まぐるしい変化に対応した意識の変革や新しい指標の設定には至っていないように思われる。多くの施策の評価標語が「概ね順調」、改善の方向性として「工夫して継続」となっているが、こうした現状に対する評価が反映されたものと理解されたい。

第一は、改善の方向性について、アウトカムイメージであるが、施策の目標をそのまま転記したような抽象的な表現が多く、アウトカムの指標に繋がるような施策目標の解題となっていないものが多い。そのため、これまでも何度となく指摘されてきたことであるが、アウトカムイメージが適切に設定されておらず、アウトカムとアウトプットが混同してしまっているところが認められる。施策指標の多くが定量化しやすい事務事業の進捗などを表すアウトプットに留まっており、施策の目標を体現したアウトカムの設定になっていないことである。また、施策の目標、アウトカムイメージ、施策評価の指標、という一連の流れが十分に理解されていないと思われるものも散見された。

第二は、社会のめまぐるしい変化やポストコロナ時代の「新たな日常」を思慮したとき、今が時代の転換期でもあり、単年度の施策や事業の評価に加え、「いたばし No. 1 実現プラン 2025」の戦略にも示されている、社会や時代の変化に応えた施策の展開への配慮も必要になってくるであろう。教育分野の施策も例外でない。とりわけSDGsが掲げる目標は、環境だけでなく社会、経済を包含する複合的なものであり、これからの政策課題は

単一所管部署の施策の枠内に留まらず、分野横断的な複眼的な視点での取組が必要であることを示唆している。

第三は、各施策の目標設定等を通じて、板橋区が区民との協働を重視していることを確認することができる。施策を遂行する上で区の行政サービスだけで目標を達成するのは困難であり、これまでの区民の意識啓発から一歩踏み出し区民の行動変容を促す、区民や事業者との連携・協働（パートナーシップ）や区民参加による多様な施策の展開が不可欠になっているのではないかと考える。「確かな学力の向上・定着と質の高い教育の推進」におけるコミュニティスクールをはじめとして、「家庭教育の支援と青少年の健全育成」における青少年問題協議会や青少年健全育成地区委員会などへの事業委託や地域との連携・協力、「児童・生徒の健康増進」における医師会、薬剤師会など関係機関や給食委託事業者等との連携・協力、「こころの健康づくりの増進」におけるゲートキーパーの養成などは、パートナーシップによる施策の展開の可能性を示すものであろう。今後、それぞれの施策において、さらに区の役割とより具体的かつ多様なパートナーシップの姿を構想し、より具体的な指標策定を行うことが必要と考える。

今年度の外部評価についても、例年と同様に各委員の意見やコメントが所見としてまとめられているが、非常に示唆に富んだ所見であり、是非詳しく一読いただきたい。特に各委員が担当した施策に個別的 content に関連のある事項はこの総評では言及していないが、各委員の所見に目を通し共通の認識であるものについては、できるだけ総評でも取り上げるようにしたつもりである。

各委員の所見を含む本年度の行政評価が、今後の施策の遂行において少しでも役立つことを願っている。

令和5年8月2日

板橋区行政評価委員会
委員長 倉田 直道

2 外部評価の目的

板橋区は、平成 13 年 9 月に行政評価制度を導入するにあたり、行政内部の自己診断にとどまらず、学識経験者の専門性や区民の視点に立った第三者による客観的な評価を取り入れることとし「板橋区行政評価委員会」を設置しました。板橋区行政評価委員会は、板橋区長から委嘱された学識経験委員と公募区民委員の計 9 人以内で構成されています。

板橋区行政評価委員会による外部評価は、行政に説明責任を果たさせるとともに、その透明性を高め、さらには行政評価システムの客観性と公正性を確保することを目的としています。また、効率的・効果的な区政経営の推進にも資するとともに、区の各組織の自己革新を促進するための提言を行う役割も担っています。

3 外部評価活動

(1) グループ編成と役割分担

行政評価委員会は外部評価を効率的に進めるため、委員を A・B・C の 3 グループに分けて編成し、各グループに基本政策が割り当てられ、その中から選定した施策について評価を実施していくこととしています。

また、グループにおける委員の役割分担として、学識経験委員が中心となって専門的見地から評価していくとともに、公募区民委員は区民視点から各グループで担当する施策に対して確認や意見等をします。

(2) 評価対象施策の選定

令和 5 年 5 月 26 日に開催した行政評価委員会（令和 5 年度第 1 回）において、「基本計画 2025」に位置付けられた全 68 施策のうち、今年度は次の基本政策の中から 8 施策を外部評価対象として選定しました。

基本政策Ⅰ－2「魅力ある学び支援」から 6 施策・・・A・B グループ

基本政策Ⅱ－1「いきいきかがやく元気なまち」から 1 施策・・・C グループ

基本政策Ⅲ－2「万全な備えの安心・安全」から 1 施策・・・C グループ

(3) 評価対象関連施設の視察

効果的な外部評価の実施を図るため、外部評価対象施策に関連する施設の視察を実施しています。

今年度は 6 月 1 日・2 日・7 日の 3 日間で実施しました。各グループは半日行程で 1～3 施設（箇所）ずつ回り、施設担当者及び現地担当者からの案内や説明のもと、質疑応答を交えながら施設や事業を視察しました。

各グループが視察した場所は、以下のとおりです。

【A グループ】 上板橋第二中学校
教育科学館〔指定管理者〕
大原生涯学習センター

【B グループ】 熊野地域センター

【C グループ】 保健所

(4) 公開ヒアリングの実施

行政評価委員会の各グループで公開ヒアリングを実施しました（計 3 日間・約 8 時間実施）。

ヒアリングは、まず所管課長から施策の概要やアウトカムイメージ等の説明を受け、事務事業を含む施策全体についての質疑応答を行う形で進めました。このヒアリングは、職員の意識改革をさらに進め、区民への説明責任を果たすとともに、必要に応じて施策・事務事業の見直しを促すための重要な場でもあります。

所管部署からは施策のアウトカムイメージを引き出すことを意識しつつ、各委員の個別研究やヒアリングを踏まえて、各グループで外部評価結果の所見をまとめました。

4 外部評価の視点

施策評価に対する外部評価の視点については、第1回行政評価委員会において、以下のとおり決定しました。

- ① 成果の分析
 - ・ 施策目標に対する成果（実施値）の推移について
 - ・ 目標と成果にギャップがある場合の要因について
- ② アウトカムの分析
 - ・ 最終アウトカム（施策目標）を達成するための中間アウトカムは妥当か
- ③ 環境変化の分析
 - ・ 環境変化への対応状況について（社会状況や区民ニーズに対応できたか）

5 評価評語及び改善の方向性

（1）評価評語

順調	計画通りに進捗しており、目標達成が見込める状態
概ね順調	進捗状況に課題はあるが、事業の継続により目標達成が見込まれる状態
停滞	目標に対してあまり進展していない状態
達成	計画どおり、又は、計画より早く進捗し、目標を達成した状態

（2）改善の方向性

工夫して継続
目標値・指標の見直し
事業手法の見直し
事業の廃止（完了含む）

6 外部評価結果

（1）外部評価対象の施策

区では行政評価制度を見直し、平成29年度から「基本計画2025」のマネジメントツールとしました。

これに伴い、外部評価としての行政評価委員会については「基本計画2025」に位置付けられた全68施策を6年間で評価することとしています。

※令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外部評価を実施していません。

（2）外部評価結果の決定

令和5年7月5日に開催した行政評価委員会（令和5年度第2回）において、各グループがヒアリングの結果を報告し、委員会で意見調整を行いました。

各所管部署から施策が目指すアウトカムのより明確なイメージを引き出しつつ、行政自らは意識できていない課題、施策の進捗度合いやそれを構成する事務事業の成果

や効率性に関する意見、施策の視点から見た事務事業の役割やその有効性、貢献度などを中心に議論を重ね、合議により行政評価委員会としての外部評価結果をまとめました。

(3) 外部評価結果について

基本計画 2025

基本目標Ⅰ 未来をはぐくむあたたかいまち

基本政策Ⅰ－2 魅力ある学び支援

施策 CD	施策名	事務事業数	評価評語	改善の方向性
120100	教育施策の総合的な推進	6	概ね順調	工夫して継続
120200	確かな学力の向上・定着と質の高い教育の推進	18	概ね順調	工夫して継続
120600	家庭教育の支援と青少年の健全育成	8	概ね順調	工夫して継続
120700	世代を超えた学習・学び合う活動の推進	9	概ね順調	事業手法の見直し
120900.	児童・生徒の健康増進	17	概ね順調	工夫して継続
121100	魅力ある学校づくり	10	概ね順調	工夫して継続

基本目標Ⅱ いきいきかがやく元気なまち

基本政策Ⅱ－1 豊かな健康長寿社会

施策 CD	施策名	事務事業数	評価評語	改善の方向性
210800	こころの健康づくりの推進	3	概ね順調	目標値・指標の見直し

基本目標Ⅲ 安心・安全で快適な緑のまち

基本政策Ⅲ－2 万全な備えの安心・安全

施策 CD	施策名	事務事業数	評価評語	改善の方向性
320600	感染症等予防対策の推進	13	順調	工夫して継続

外部評価における8施策の評価結果を評価評語別、改善の方向性別に整理してみると、以下のようになります。

① 評価評語 (単位：施策数)

順調	概ね順調	停滞	達成	合計
1	7	0	0	8

② 改善の方向性 (単位：施策数)

工夫して継続	目標値・指標の見直し	事業手法の見直し	事業の廃止	合計
6	1	1	0	8

評価評語では、目標に対してあまり進展していない状態を表した「停滞」はなく、「順調」が1施策、「概ね順調」が7施策という結果となりました。「概ね順調」の7施策については、目標達成が見込める状態となるように、今後改善を図っていくこ

とがより一層求められています。

改善の方向性では、「工夫して継続」が6施策、「目標値・指標の見直し」が1施策、事業手法の見直しが1施策でした。「目標値・指標の見直し」の1施策については、現在設定されている施策指標では、施策の進捗を確認する上で十分といえない状況であるという意見も出たことから、担当所管では新しい指標の検討が望まれます。

「事業手法の見直し」の1施策については、事業の在り方について早急に検討し、新たな事業手法の導入の検討が望まれます。

また、客観的な数値としては表しにくいところですが、既に一定程度の成果を上げている、改善を図っている、取組の推進に対する努力がうかがえるなど、ストロングポイントとして評価できるところが各施策にありました。

一方で、それらを差し引いて見えてきた課題やその改善の方向について、施策を担当した委員が具体的な指摘をしています。これらについては、8頁以降の各施策評価の所見欄等を参照してください。

7 外部評価結果（施策別）

施策名	120100	教育施策の総合的な推進										
SDGs (関連性のあるGOAL)	4 質の高い教育を みんなに 	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 										
基本目標	I 未来をはぐくむあたたかいまち											
基本政策	I－2 魅力ある学び支援											
所管部長	教育委員会事務局長						所管課長	教育総務課長				
関連所管												

【施策基本情報】

施策概要（「基本計画2025」）	施策のアウトカムイメージ
【概要】 社会環境の変化に対応し、21世紀社会を担う子どもたちを育むため教育施策を総合的に推進する。 【関係課または区以外の主体が施策実現に果たす役割】 安心・安全で魅力的な学校環境の中で、学校・家庭・地域が連携して子どもたちを育てる。その中で、21世紀を担う子どもたちのたくましく生きる力を教育を通じてはぐくむ。 【主な取り組み】 板橋区教育ビジョン・板橋区教育振興計画の推進、教育委員会運営など	教育委員会が教育施策にしっかりとコミットし、板橋の子どもたちが「学校に通いたい」、保護者が「学校に通わせて良かった」、地域の方が「学校を誇れる」、教員が「板橋の学校で勤務し続けたい」、区民誰もが「いつでも、どこでも学べる」と、それぞれが真に思える、教育環境が整備された街「教育の板橋」を実現していく。

【指標の推移】

区分	指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	目標値
			実績	実績	実績	計画	目標年度
施策指標 ①	子どもたちがたくましく生きる力が教育を通してはぐくまれていると感じる区民の割合	%	—	27.9	—	?	?
		達成率(%)	—	0.0	—	0.0	令和 7年度

【外部評価】行政評価委員会による評価

評価評語／改善の方向性	概ね順調／工夫して継続
教育委員会における不登校問題への姿勢として、登校したい子どもたちが、どのようなサポートで登校できるようになるのかを考えていくと同時に、子どもたちの学びを止めず、社会的自立を果たすための教育環境整備の充実を図っていくことを目指していることがうかがえた。今後も、様々な理由で学校に登校することができない子どもたちについて、板橋区特有の傾向があるかどうかについても着目しながら、不登校対応に向き合っていただきたい。 教育施策については、国の指針から大きく方向性を変えることが難しい面はあるものの、板橋区教育ビジョン、いたばし学び支援プランを踏まえつつ、板橋区コミュニティースクール(iCS)をはじめとした板橋区の個性を出しながら、将来を担う子どもたちを育む取組を着実に進めていただきたい。	

【区民委員補足意見】

不登校生徒が中学校を卒業後、区がサポートできるかどうかについては非常に難しい問題であると認識しているが、東京都教育委員会や都立高校との関係を構築しながら、不登校生徒のサポートを推進していただきたい。

また、総論的ではあるが、区民が「教育の板橋」と肌で感じるのが大切で、取組の実績を区民に対しもっと発信するべきだと思う。

施策名	120200	確かな学力の向上・定着と質の高い教育の推進									
SDGs (関連性のあるGOAL)	4 質の高い教育をみんなに 	10 人や国の不平等をなくそう 	16 平和と公正をすべての人に 								
基本目標	I 未来をはぐくむあたたかいまち										
基本政策	I－2 魅力ある学び支援										
所管部長	教育委員会事務局長					所管課長	指導室長				
関連所管	教育総務課 教育支援センター										

【施策基本情報】

施策概要（「基本計画2025」）	施策のアウトカムイメージ
【概要】 子どもの学ぼうとする意欲と学ぶ・学び続ける力、豊かな心、健やかな体を育成し、変化の激しい社会をたくましく生きる力を養成する。 【関係課または区以外の主体が施策実現に果たす役割】 ・子どもたちの育ちや家庭・教職員・地域の教育を支える。 ・家庭・学校・地域が連携するための環境をつくり、取組を支援する。 ・教員の資質・能力の向上に努め、質の高い教育を推進する。 【主な取り組み】 ・学級満足度調査（hyper-QU）、外国人英語補助指導員による英会話授業、電子黒板等の教育ICT機器の整備、教職員の研修・研究の実施	質の高い教育を実現するため、家庭・学校・地域が連携するコミュニティースクールを土台に小中学校9年間を通して、子どもたちの確かな学力の向上が図られている。 新学習指導要領で求められる子どもたちの資質・能力を育成するために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「板橋区授業スタンダード（※）」に基づいた授業が根付き、授業改善が図られている。 ※1単位時間の授業で基本とする流れ（学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り）。

【指標の推移】

区分	指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	目標値
			実績	実績	実績	計画	目標年度
施策指標	① hyper-QU	人	26,617.0	13,403.0	26,453.0	28,400.0	—
		達成率(%)	—	—	—	—	—
	② 外国人指導員配置回数（小中学校）	回	4,371.0	4,348.0	4,415.0	4,583.0	—
		達成率(%)	—	—	—	—	—
	③ ICT活用支援回数（小中学校）	回	3,024.0	4,512.0	4,872.0	4,860.0	—
		達成率(%)	—	—	—	—	—
	④ 板橋区立学校園教員の教育支援センター利用率	利用率(%)	—	59.0	78.1	—	100.0
		達成率(%)	—	59.0	78.1	—	令和 7年度
	⑤ 区立小中学校全国学力・学習状況調査平均正答率	平均正答率	—	66.3	62.5	—	—
		達成率(%)	—	—	—	—	—

【外部評価】行政評価委員会による評価

評価評語／改善の方向性	概ね順調／工夫して継続
板橋区コミュニティ・スクール(iCS)は、学校と地域が一体となって子どもたちを育むための仕組みであり、「地域とともにある学校」の実現に向けた区独自の取組として評価したい。 板橋区授業スタンダードについては、教育委員会による現場視察や研修等において、定着度や実践度合のチェックが行き届いているものの、子どもたちの資質・能力育成に対してどういった効果をもたらしているのかを注視していく必要がある。 また、最近注目を集めているChatGPTについては、今後、国の方針等も踏まえた区の方針を決定していくことが求められることになるが、GIGAスクール構想同様、子どもたちの学力への影響を第一に考え、効果的な場面を見極めながら、慎重に検討していただきたい。	

【区民委員補足意見】

本施策の発現に欠かせないのは第一に教員の資質能力の向上である。そのための枠に囚われない施策指標の検討も必要ではないか。またコミュニティ・スクール委員会の存在が重要であることがよく理解できた。

施策名	120600	家庭教育の支援と青少年の健全育成									
SDGs (関連性のあるGOAL)	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を 実現しよう 	8 働きがいも 経済成長も 	10 人や国の不平等 をなくそう 	15 陸の豊かさも 守ろう 	17 パートナーシップで 目標を達成しよう 				
基本目標	Ⅰ 未来をはぐくむあたたかいまち										
基本政策	Ⅰ－２ 魅力ある学び支援										
所管部長	教育委員会事務局長					所管課長	地域教育力推進課長				
関連所管											

【施策基本情報】

施策概要（「基本計画2025」）	施策のアウトカムイメージ
【概要（目標）】 家庭における教育力の向上と、地域とともに青少年の健全育成に取り組む。 【関係課または区以外の主体が施策実現に果たす役割】 地域は、「地域の子どもは地域で育てる」との意識で子どもの育ちを支える。 家庭は、子どもと保護者のコミュニケーションを通じて、生活習慣や規範意識を身に付け、自立心を培う場としての役割を果たす。 【主な取り組み】 青少年委員会・家庭教育学級・青少年問題協議会・青少年健全育成地区委員会・親子たこあげ大会・少年野球親善大会・板橋音楽祭	【地域リーダーの増加】 次世代の地域リーダーを育成し、地域教育力の維持・向上に努めている。 【家庭教育力の向上】 多様な家庭環境にあっても、子どもたちが地域で生活習慣や社会的なマナーを身に付け、自立心を培っている。 【地域コミュニティの活性化】 青少年を取り巻く家庭や地域の課題を、関係者が適切に把握し、対応策を検討し、実行できている。 【青少年健全育成活動の充実】 多様な取組を展開することで、多くの青少年が健全育成活動に参画できている。

【指標の推移】

区分	指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	目標値
			実績	実績	実績	計画	目標年度
施策指標	① 青少年健全育成地区委員会事業延参加者数	人	22,081.0	27,301.0	97,185.0	357,000.0	357,000.0
		達成率(%)	6.2	7.6	27.2	100.0	令和 7年度
	② ジュニアリーダー人数	人	783.0	760.0	755.0	800.0	1,000.0
		達成率(%)	78.3	76.0	75.5	80.0	令和 7年度
	③ 生活習慣チェックシート（5歳児用）活用率	%	68.1	68.1	54.5	85.0	90.0
		達成率(%)	75.7	75.7	60.6	94.4	令和 7年度
	④ 家庭教育学級（オンライン講座）延視聴者数	人	961.0	1,281.0	1,392.0	2,100.0	2,100.0
		達成率(%)	45.8	61.0	66.3	100.0	令和 7年度

【外部評価】行政評価委員会による評価

評価評語／改善の方向性	概ね順調／工夫して継続
「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもと、いきいき寺子屋プランや青少年健全育成地区委員会の活動などが、地域のつながりや活力を支えていることがうかがえた。 今後少子高齢化がさらに進む中、この活動が引き続き安定して継続していくためには、特定のシニアのリーダーへの負担を軽減すると共に、他のメンバーも参加しやすい環境づくりが必要と思われる。潜在的ななり手の候補者の掘り起こしや、参加することのベネフィット、ボランティア精神だけではないインセンティブの検討など、現場活動を支援する仕組みの改善などの検討が望ましい。	

【区民委員補足意見】

今後も、青少年問題協議会、青少年健全育成地区委員会との連携を密にしながら、地域とともに青少年の健全育成に取り組んでほしい。

また、生活習慣チェックシートは、実際に活用した保護者からの意見なども参考にしながら、より活用しやすいものにブラッシュアップしていくことを継続してもらいたい。

施策名	120700	世代を超えた学習・学び合う活動の推進							
SDGs (関連性のあるGOAL)	4 質の高い教育を みんなに 	11 住み続けられる まちづくりを 	17 パートナーシップで 目標を達成しよう 						
基本目標	I 未来をはぐくむあたたかいまち								
基本政策	I－2 魅力ある学び支援								
所管部長	教育委員会事務局長					所管課長	生涯学習課長		
関連所管									

【施策基本情報】

施策概要（「基本計画2025」）	施策のアウトカムイメージ
【概要】 中高生を中心とした青少年の居場所づくりや、ライフステージに応じた生涯学習の機会の充実と環境を整備する。 【関係課または区以外の主体が施策実現に果たす役割】 区(教育委員会)は、家庭・学校・地域が連携するための環境をつくり、取組を支援する。区民は、生涯を通じて学び続け、地域は「地域の子どもは地域で育てる」との意識で子どもの育ちを支える。 【主な取り組み】 生涯学習センターの運営、大学・企業・団体との協働による生涯学習講座の充実、社会教育施設の充実	・ライフステージに応じた生涯学習の機会が充実し、区民が生涯を通じて学び続けることのできる環境が整備されている。 ・関連する機関との連携や協力のもと、区民の学びに対し、充実した支援を行うことができています。 ・生涯学習センターの事業実施において、区民と協働し、区民の意見を反映した事業運営が行われている。 ・区民が主体的に学び、さらに世代を超えた学び合いの場を提供することで、「世代を超えた学びの循環」が生まれ、活力ある地域コミュニティが形成されている。

【指標の推移】

区分	指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	目標値
			実績	実績	実績	計画	目標年度
施策指標	① 生涯学習センター利用者数	人	59,405.0	76,239.0	97,394.0	98,000.0	7
		達成率(%)	—	—	—	—	令和 7年度
	② 生涯学習課主催講座の参加率	%	0.0	100.0	93.0	90.0	92.0
		達成率(%)	0.0	108.7	101.1	97.8	令和 7年度
	③ 生涯学習課主催講座のアンケート（とても満足・概ね満足）	%	0.0	100.0	95.8	90.0	90.0
		達成率(%)	0.0	111.1	106.4	100.0	令和 7年度

【外部評価】行政評価委員会による評価

評価評語／改善の方向性	概ね順調／事業手法の見直し
生涯学習センターや教育科学館を中心として、区民に対して学び合いの場が提供されており、職員や施設スタッフの地道な努力と創意工夫によって生涯学習の機会の充実が図られている。 区民の学習活動の拠点である生涯学習センターは、大原と成増の2箇所ではあるものの、引き続き、それぞれ特徴のある活動を広く区民に向けて発信していただきながら、学びを通じた多世代の交流を促進していただきたい。 教育科学館においては、運営スタッフの個性を生かした科学に関する知識の普及啓発により、来館者の関心を高めるための様々な取組がなされていることがうかがえたが、得意分野に偏った内容にならないよう、ニーズを捉えた質の高い事業を進めるのと同時に、企業や大学との連携を図った新たな事業展開を模索してみてはどうか。 教育科学館のプラネタリウムや展示スペースの老朽化への課題については、区として、展示設備を含めた施設のあり方の検討を早急に検討し、クラウドファンディングなどの資金調達や、企業連携による展示など、様々な手法の導入、見直しを進めていただきたい。	

【区民委員補足意見】

日ごろから生涯学習センターについては、区民の学び合う場として、うまく運営できていると感じていた。今後も、講座内容の検討にあたっては、区民ニーズを積極的に取り入れながら、内容の充実を図っていただきたい。

また、指摘のあった施設の老朽化は、外部資金を募る更なる工夫が喫緊の課題ではないかと思われる。

施策名	120900	児童・生徒の健康増進							
SDGs (関連性のあるGOAL)	2 飢餓を ゼロに 	3 すべての人に 健康と福祉を 	4 質の高い教育を みんなに 	12 つくる責任 つかう責任 					
基本目標	I 未来をはぐくむあたかいまち								
基本政策	I－2 魅力ある学び支援								
所管部長	教育委員会事務局長				所管課長	学務課長			
関連所管	教育総務課								

【施策基本情報】

施策概要（「基本計画2025」）	施策のアウトカムイメージ
【概要】 児童・生徒の栄養と健康づくりを推進する。 【関係課または区以外の主体が施策実現に果たす役割】 板橋区医師会、板橋区歯科医師会、板橋区薬剤師会は、学校における保健管理に関する専門的事項に関し、技術提供及び指導する。 給食委託事業者は安全・安心に学校給食を提供する。 【主な取り組み】 各種検診の実施、学校給食の充実、食育の推進など	医師会、歯科医師会、薬剤師会等の関係機関と連携し、学校・園において、各種検診の実施や保健に関する啓発、学校環境衛生基準の維持改善、学校給食の充実、食育の推進などを安定的に継続し、健康増進や疾病予防に取り組むことで、児童・生徒・園児の心身共に健やかな成長を実現する。

【指標の推移】

区分	指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	目標値
			実績	実績	実績	計画	目標年度
施策指標	① 朝食を毎日食べる習慣の定着（小6）	%	—	85.0	94.2	89.9	91.0
		達成率(%)	—	93.4	103.5	98.8	令和 7年度
	② 朝食を毎日食べる習慣の定着（9年生）	%	—	81.8	89.4	84.0	85.0
		達成率(%)	—	96.2	105.2	98.8	令和 7年度
	③ 給食室ドライ化実施校数	校	32.0	33.0	33.0	34.0	34.0
		達成率(%)	94.1	97.1	97.1	100.0	令和 7年度
	④ 定期健康診断受診率（小中学生）	%	97.4	98.5	98.3	100.0	—
		達成率(%)	—	—	—	—	—
	⑤ 一人あたりの永久歯のむし歯経験本数（7年生）	DMFT 指数	0.6	0.5	0.5	㍻	㍻
		達成率(%)	—	—	—	—	—

【外部評価】行政評価委員会による評価

評価評語／改善の方向性	概ね順調／工夫して継続
新型コロナウイルス感染症が流行する中でも安心して学校や幼稚園で生活を送れるよう、各学校等との連携により、感染対策を行いながら各種健康診断の実施や、安全対策を進めながら給食を提供するなどの地道な努力が行われていることがうかがえた。 法定に従った事務事業ではあるものの、板橋区の置かれた地理的特徴や児童生徒を取り巻く環境の変化、特に地区別にみた健康や疾病傾向、最近の社会的な課題などの動向など、担当する職員が特定分野の専門知識やスキルを磨くだけでなく、リスキリングについても自由に話し合う機会を広げ、現場発で新たな取組を検討する職場づくりを期待したい。	

【区民委員補足意見】

各種検診の実施にあたっては、医師会をはじめとした関係機関との連携が図られていることがうかがえた。関係機関とさらなる連携を深めつつ、小・中学生時代の成長に着目した栄養と健康づくりの情報を保護者にも積極的に展開し、施策を推進されたい。

施策名	121100 魅力ある学校づくり									
SDGs (関連性のあるGOAL)	4 質の高い教育を みんなに 	6 安全な水とトイレ を世界中に 	12 つくる責任 つかう責任 							
基本目標	I 未来をはぐくむあたたかいまち									
基本政策	I－2 魅力ある学び支援									
所管部長	教育委員会事務局長					所管課長	新しい学校づくり課長			
関連所管	学務課									

【施策基本情報】

施策概要（「基本計画2025」）	施策のアウトカムイメージ
【概要】 安心・安全な学校施設機能と、集団としての教育機能が最大限に発揮される学校規模を整え、豊かな社会性をはぐくむ教育環境を整備する。 【関係課または区以外の主体が施策実現に果たす役割】 地域で学校を支援し、学校とともに子どもを教育する。 【主な取り組み】 学校の改築、学校施設の改修、区立学校の適正規模・適正配置の推進など	老朽化している学校施設の更新を着実に実施しながら、学齢人口の一時的な上昇にも柔軟に対応し、安心・安全で快適な教育環境が実現している。

【指標の推移】

区分	指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	目標値
			実績	実績	実績	計画	目標年度
施策指標	① 全小中学校における過小規模校数	校	2.0	3.0	3.0	—	㍻
		達成率(%)	—	—	—	—	
	② 学校施設整備数（改築）	校	2.0	3.0	3.0	3.0	3.0
		達成率(%)	66.7	100.0	100.0	100.0	令和 7年度
	③ 学校施設整備数（増築）	校	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
		達成率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	令和 7年度
	④ 学校施設整備数（大規模改修・長寿命化改修）	校	2.0	4.0	4.0	4.0	5.0
		達成率(%)	40.0	80.0	80.0	80.0	令和 7年度

【外部評価】行政評価委員会による評価

評価評語／改善の方向性	概ね順調／工夫して継続
建物の改築にあたっては、設計過程において現場で使う人たちとのコミュニケーションが非常に重要であり、設計側の意図を十分に理解してもらいつつ、新しい建物、スペースをどのように活用することがより良い環境整備につながるのかを、現場の方々とも一緒になって考えていくことが欠かせない。 引き続き、いたばし魅力ある学校づくりプランなどにに基づきながら、学校の改築や適正規模・適正配置の推進に取り組んでいただくとともに、ワークショップなどを通じて、実際に使用する先生や生徒等の意見を丁寧に汲み取っていただきながら、本施策を進めていかれたい。	

【区民委員補足意見】

改築された中学校では、教科センター方式やメディアスペースが積極的に取り入れられており感心した。

老朽化したままの学校と比較すると、教育環境の格差が懸念されるが、引き続き、従来の学校でも取り入れられる良い仕組み、工夫などを学校間でも展開していただき、地域格差のない安心・安全で快適な教育環境を整えてほしい。

施策名	210800	こころの健康づくりの推進									
SDGs (関連性のあるGOAL)	3 すべての人に健康と福祉を 	10 人や国の不平等をなくそう 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 								
基本目標	Ⅱ いきいきかがやく元気なまち										
基本政策	Ⅱ－１ 豊かな健康長寿社会										
所管部長	健康生きがい部長						所管課長	予防対策課長			
関連所管	板橋健康福祉センター 上板橋健康福祉センター 赤塚健康福祉センター 志村健康福祉センター 高島平健康福祉センター、健康推進課										

【施策基本情報】

施策概要（「基本計画2025」）	施策のアウトカムイメージ
【概要】 こころの健康や病気について理解を深め、だれもが自分らしく生きていけるように、ともに支えあう社会をめざす。 【関係課または区以外の主体が施策実現に果たす役割】 ・ 区民への健康づくりに関する意識啓発を行う ・ 地域や事業者、関係機関などの連携を強化する 【主な取り組み】 精神保健教育、こころの健康サポーター活動支援、精神保健福祉相談、地域精神保健福祉協議会、精神科医療機関間情報交換会など	・ 精神疾患があっても、地域で自分らしく生活できる。 ・ こころの不調への理解を深め、早期に対応することができる。 ・ メンタルヘルスへの誤解、偏見の防止。

【指標の推移】

区分	指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	目標値
			実績	実績	実績	計画	目標年度
施策指標	① 精神保健福祉相談・訪問（専門相談を含む）	人	24,588.0	21,732.0	23,452.0	27,000.0	27,000.0
		達成率(%)	91.1	80.5	86.9	100.0	令和 7年度
	② 自殺死亡率（人口10万対）	率	18.7	19.3	20.1	17.4	17.4
		達成率(%)	107.6	110.9	115.5	100.0	令和 7年度
	③ 講演会参加者数（精神保健福祉講演会・地域自殺対策研修・地精協講演会・フォローアップ講座）	人	177.0	161.0	1,289.0	1,530.0	1,530.0
		達成率(%)	11.6	10.5	84.2	100.0	令和 7年度

【外部評価】行政評価委員会による評価

評価評語／改善の方向性	概ね順調／目標値・指標の見直し
精神保健の正しい知識の普及を図るため、コロナ禍においても感染拡大防止に努めながら、事務事業を進めていることがうかがえた。 自殺死亡率については、様々な社会情勢の変化に起因して数値が変動する可能性があることから、自殺を減少させることにつながる状態を示した成果指標が加わると、より施策の進捗状況が区民に対しても分かりやすくなるのではないかと。	

【区民委員補足意見】

ゲートキーパーを地域に広げていくことは大切であると感じている。自分の身近にいる悩みを抱えた人に対して、適切な対応ができる区民などが徐々に増えていくよう、令和5年度に開始したゲートキーパー出張研修の取組などにも期待したい。

施策名	320600	感染症等予防対策の推進									
SDGs (関連性のあるGOAL)	3 すべての人に健康と福祉を 										
基本目標	Ⅲ安心・安全で快適な緑のまち										
基本政策	Ⅲ－2万全な備えの安心・安全										
所管部長	健康生きがい部長					所管課長	感染症対策課長				
関連所管	板橋健康福祉センター 上板橋健康福祉センター 赤塚健康福祉センター 志村健康福祉センター 高島平健康福祉センター										

【施策基本情報】

施策概要（「基本計画2025」）	施策のアウトカムイメージ
【概要】 感染症に関する正しい知識の普及を図り、発生情報を迅速かつ適切に収集・伝達することによって、感染症の発生予防とまん延を予防する。 【関係課または区以外の主体が施策実現に果たす役割】 感染症や予防接種に関する相談は5健康福祉センターにおいても実施している。 【主な取り組み】 防疫措置・予防接種・新型インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症対策など	感染症対策は感染症法に基づき、予防接種は予防接種法に基づき実施している。法律や国の指針・ガイドラインに従って感染症の撲滅に向け努力をしている。 結核罹患率15.4人をめざした接触者検診・管理検診の実施や、定期予防接種の100%接種率をめざした予防接種といった様々な取り組みにより、早期対応をこころがけることによって、感染症の拡大が防止されている状態を実現する。

【指標の推移】

区分	指標名	単位	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	目標値
			実績	実績	実績	計画	目標年度
施策指標	① 板橋区の結核罹患率（人口10万対）	人	16.6	13.2	10.0	10.0	15.4
		達成率(%)	107.8	85.7	64.9	64.9	令和 7年度
	② 麻しん風しん混合第1期接種率	%	99.6	97.0	96.5	95.0	95.0
		達成率(%)	104.8	102.1	101.6	100.0	令和 7年度

【外部評価】行政評価委員会による評価

評価評語／改善の方向性	順調／工夫して継続
自宅療養中の新型コロナウイルス感染症患者に対する24時間の医療相談、医療提供体制を整備した区独自の取組については、その後、都や全国の自治体にも広がったものであり、先進的な取組として高く評価できる。 今後も、医療機関との連携を図りながら、感染症の発生と蔓延の防止に取り組んでいただきたい。	

【区民委員補足意見】

結核については、普段身近に感じることがない区民もいることから、早期発見と感染拡大防止に向けて、結核予防月間などに合わせながら、今後も周知・啓発を継続してほしい。

また、任意のワクチン接種に対する助成をどこまで区が取り組むかどうかについては、判断が難しい部分があると思うが、感染症の発生予防と蔓延を予防していくためにも、少しずつワクチン接種助成の範囲を拡大していただきたい。

8 外部評価結果に対する委員の所見

令和5年度の外部評価を終えて

副委員長 村山 洋史

行政評価委員を務めて3年目となり、様々な分野の行政事業を知ることができている。初年度だった令和3年度は、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）流行下真っ只中であり、行政事業はその影響をもろに受けていた時であった。しかし、今年度はコロナが5類感染症に移行したこともあり、多くの事業が通常に戻りつつあると感じた。加えて、コロナ禍をきっかけに取り入れた方法（例えば、研修等のオンライン開催）を引き続き取り入れている事業が多く、まさに「アフターコロナ時代」であることを実感した。

今年度は、Cグループとして、「こころの健康づくりの推進」「感染症等予防対策の推進」を担当した。「感染症等予防対策の推進」は、コロナ対応を含む施策であり、職員の皆様の努力や工夫が詰まった事業だと感じた。板橋区発の独自事業が、都や他自治体に広がったという話を伺った。板橋区では、医療機関と行政が連携する素地があり、それが独自事業に繋がったとのことで、コロナに限らず将来の様々な疾病対策に関してより良い方法を生み出していただけのではないかと期待を持つことができた。

また、「こころの健康づくりの推進」もコロナと非常に関連の強い事業である。コロナ禍によって、自殺率の上昇やメンタルヘルスの悪化は深刻であり、その対策は全国的に求められている。板橋区では、令和5年3月に自殺対策に関する計画を策定するといった精力的な取組を推進しており、今後の展開が楽しみに感じた。

施策評価の観点では、これまで別事業に対して指摘してきた事項と同じような課題が散見された。例えば、アウトカムとアウトプットの混在、設定された施策指標の適切性の問題である。これらには共通し、「施策のアウトカムイメージが明確でない点」、あるいは「施策のアウトカムイメージと施策指標との整合性を意識できていない」という点が背景に存在するように感じた。

ビジョン（目指すべき将来像）を掲げ、それが達成できるように細かいアクションを計画するという作業は、ビジネスの分野でも研究の分野でも、もちろん行政施策の分野でも、どんな分野においても同じである。ビジョンに対して、実際に何をするのか（＝事業企画・展開）、その過程で何を評価すべきなのか、どうなっていればビジョンに近づいていると判断できるのか（＝事業評価）を考え、時に事業や評価がビジョンと整合できているかを見直す。もしズレが生じている場合には、軌道修正を行う。「行政施策では途中の軌道修正が難しい」という声を聞くが、ビジョンからズレたままの事業を続けることで不利益を被るのは区民である。施策評価では、きちっと進捗を確認するという「厳密性」はもちろん重要だが、うまくいっていなければ良い方向に変化させるという「柔軟性」こそ、これから必要な要素になってくるだろう。

区民や関係者・関係機関との対話を通して、未来志向のよりよい施策の展開を目指していただけることを期待している。

令和5年度の外部評価を終えて

委員 北垣 武久

はじめに、今年度は120600「家庭教育の支援と青少年の健全育成」と、120900「児童・生徒の健康増進」を担当した。この施策の先行する施策としては120100「教育施策の総合的な推進」が最初に掲げられ、120200「確かな学力向上・定着と質の高い教育の推進」、120700「世代を超えた学習・学び合う活動の推進」、121100「魅力ある学校づくり」などにつぐものであった。全体が効果的に運営されるために、一貫したビジョンのもとに個別の施策が相互に関連し合っていることがうかがえた。

120600「家庭教育の支援と青少年の健全育成」については、所管する地域教育力推進課は、地域連携係、青少年係、あいキッズ係で構成されている。地域連携は青少年問題協議会や青少年健全育成地区委員会などへの事業委託や連携協力によって施策づくりが行なわれ、その実現のために地域社会で育成活動と社会環境の浄化に向けた活動が有効に展開されている。家庭教育は本来、青少年が健全に育成される第一義的に位置づけされるものであり、基本的な生活習慣や豊かな情操、倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につけるためには家庭が責任を持って育成するものであるが、それが出来ない家庭もあることから支援事業として家庭教育学級が行われている。また子ども達の中から地域リーダーを育てると共に地域コミュニティの活性化と青少年健全育成活動が円滑に実施され、「地域の子どもは地域で育てる」ためにジュニアリーダー体験学習やいきいき寺小屋プランなど、家庭環境の多様化に伴う、新たなニーズへの対応など、ボランティア、町会・自治会の幹部らの積極的な協力によって可能と思われる。高齢化社会を迎え、特定のシニアリーダーの頑張りだけでは担い手も減少する中で、担い手の発掘やインセンティブも検討するなど、支える仕組みの改善も必要と思われる。

120900「児童・生徒の健康増進」については、児童・生徒の健康について、心身共に健やかな成長を実現することは、この施策の目指す姿であり、実施に当たっては医師会、薬剤師会など関係機関との連携や、給食委託事業者等からの協力と関係が欠かせない。また法定に基づくもので、継続性と安定性が重視されることから指標の設定も従来から引き継いでいる。評価表の記述の中に学校医への報酬が他の自治体よりも低いという記述が見られた。医療専門家の好意的な協力や支援が無ければ、本来の成果も達成しづらいと思われるので、然るべき検討が望まれる。給食事業においては、令和4年度には教職員を対象に食物アレルギーの理解促進講演会が区独自の取組として実施された。多様化しているアレルギー問題に関する関係者の理解と対策を考える上で効果的な取組であり評価したい。子供たちへの食育は、地元の農園で栽培した農作物を活用したふれあい農園会給食が実施されているが、地域特性を活かした企画である。過去3年間新型コロナウイルス感性症が流行する中で、安心して学校や幼稚園で生活が送れるよう、感染対策を実施しながら各種健康診断や安全対策を進め給食を提供するという地道な努力に敬意を表したい。スポーツ庁から公表された調査結果には改善すべきテーマもあるので検討されたい。

全体に青少年の育成事業は家庭と地域関係者、そして行政（教育委員会）の三位一体で進める事業であることを再認識すると共に、地域関係者の地域愛とボランティア精神の涵養の重要性を感じることができた。

令和5年度の外部評価を終えて

委員 花輪 宗命

未曾有のコロナ禍による事実上2年近くの中断を経て、板橋区の外部評価は、新体制の下で、従来の外部評価の実績と成果を踏まえながらも、近年の時代環境の変化も見極めた外部評価が行えるよう改善を加えて、一昨年度再出発した。

再開3年目に当たる今年度は、従来教育委員会の側で行ってきた「教育委員会が行う点検評価」と、これまで当委員会が取り組んできた「行政一般の外部評価」とを合体させて評価するという試みに初めて挑んだ。私は、今年度の板橋区の外部評価の試みは、時宜を得た課題に取り組もうとするものだと感じたので、ある種の興奮を覚えるとともに、責任の重さに身が引き締まる思いで任務に臨んだ。

私が専攻する地方行財政の領域では、21世紀に入ってから、経済・社会の少子高齢化、グローバル化及びデジタル化が急速に進み、地域住民の安心・安全を確保し、福祉の向上を図るには、最早高度成長期の成功体験ややり方では対応できない事態が次々と発生してきている。これまでは、守備範囲が余り被らないと考えられてきた「一般行政」と「教育」の分野に於いては、その傾向が特に顕著であると見ていたので、今年度の板橋区の外部評価は、殊の外、重要だと考えたのである。

結論から先に言うと、今年度の外部評価は、私のその意気込みに十分応えてくれるものであった。私たちAグループが担当した「教育施策の総合的な推進」、「確かな学力の向上・定着と質の高い教育の推進」、「世代を超えた学習・学び合う活動の推進」及び「魅力ある学校づくり」の4施策の外部評価の結果は、別添の施策評価表の評価標語が、全て「概ね順調」となっている通り、板橋区政は、上記の「21世紀に入ってから新たな課題」に、真正面から取り組み、現場の様々な工夫と努力によって、概ね順調に対応できていると評価しているからである。

しかし、もう少し正直に言うと、私は、今年度の外部評価を行った諸施策について、板橋区（と教育委員会）は、21世紀に入ってから次々と発生してきている新たな課題に、現場の様々な工夫と努力によって、臆せることなく前向きに取り組んでいることに敬服したい。評価する立場の私は、自分の限られた経験と知識の枠を超えることができておらず、各施策の推進を所管している組織とその職員の責任感と積極姿勢に比し、勉強不足であったのではないかと反省すること頻りであった。

該当する事項について、詳細にわたる具体例を挙げることは、紙幅の関係で難しいので、最後に主な事例をいくつか列挙して、私の所見を締めくくりたい。

- ①先進的な区立の中学校の校舎は、生徒の学習意欲を高める開放的な施設環境を整えているほか、周辺のコミュニティ（住民）の活動拠点として地域にも開放されている。
- ②区長部局と教育委員会事務局との連携が適切にとれている。
- ③地域の生涯学習センターや教育科学館などの社会教育施設が、世代を超えて、これからの区民ニーズに適切に応えている。
- ④板橋区コミュニティ・スクールを土台に、質の高い教育の実現に取り組んでいる。

令和5年度の外部評価に参加して

委員 井上 恵資

令和元年以来4年ぶりに外部評価活動に参加させていただくことになり、コロナ禍を潜り抜けてきたこの制度の変遷に関心を寄せてきた。その印象は、以前と「風向き」は変わっていなかったということである。イノベーションへの強い意志を4年前と同じように感じ取れた。

ここからは、担当4施策についての所見を述べて行く。まずは、「教育施設の総合的な推進」について。総論的な施策であり焦点が絞りにくいと思える。ただ、施策の指標で気になるところがあった、基本計画2025に明記されている施策指標自体、今は無理が生じており、アウトカムイメージに繋がる指標を別途発案して併用するべきではないかと思われる。「教育の板橋」という標語がいつの間にか消えていたということがないためにも所管には大いに改善を期待したいところである。

次に「確かな学力の向上・定着と質の高い教育の推進」について、私見では、何よりもまず教員のレベルの高い資質、能力の維持取得が第一と考える。

先生なくして生徒の学力向上はあり得ない。hyper-QUや生徒平均正答率から施策評価をすることには無理がある。また、教員に関する施策指標が教育支援センター利用率だけでは甚だ物足りなく、教員自体への習得主義に今少し傾注すべきではないか。先生方の職場環境改善や過剰勤務という多難な問題が立ちはだかつてはいるが、「教育の板橋」に向かい邁進して行くためには力強い活動を期待したいところである。

次の施策「世代を超えた学習・学び合う活動の推進」では、指標が施策に良く適応しており適切なアウトカムイメージが形成されていると思われる。ただ、視察させていただいた施設の老朽化を指摘する声が多く出ていた。資金調達の問題であるが、クラウドファンディングのような道も必要と思われる。区民の意識に共鳴し区内の企業も賛同できるインセンティブを旗印に資金を捻出する工夫が欲しいところである。いささか手前味噌ではあるが、資金調達の一助として、国際科学オリンピック板橋版の板橋科学オリンピックを主催し、人材確保を目指す企業の賛同を取り付けるといった発想があってもいいのではないだろうか。

「魅力ある学校づくり」については、以前より海外のインターナショナルスクールの教育スタイルに魅力を感じていたが、一部のフォーマットが教科センター方式としてすでに板橋区で実践されており驚きを覚えた。

この教科センター方式には大いに期待したいところである。また、肝心の学校施設の更新は、審議会での厳正な審議を経て区の予算配分によるところなので、その経過の中でも区域の平等性を考慮されつつ、地域格差を無くすべく最大限の効果を上げることを期待する。

今回の行政評価で思い当たったひとつは、基本計画2025から逸れることができないという堅苦しさであった。2026以降の計画作成が始動しているとのことであったが、これは繰り返し発生してくる問題である。そこで行政評価の手法として、ノンスケールで評価することができる余白があっても良いのではと思う。堅苦しさから解放される一手段としていかがであろうか。

最後に、短い期間ではあったが、高い志を持って行政評価に取り組んでおられる経営改革推進課の皆様といくらかでも活動を共有できたことを心より感謝する。

令和5年度の外部評価を終えて

委員 甲斐田 洋希

今年度においては、基本政策Ⅰ-2「魅力ある学び支援」を達成するための施策として「家庭教育の支援と青少年の健全育成」及び「児童・生徒の健康増進」を担当する機会を得た。

「家庭教育の支援と青少年の健全育成」については、青少年健全育成に関する施策の調整・推進のため、区は諮問機関としての板橋区青少年問題協議会を設置し、教育委員会から受託した地域センター単位の青少年健全育成地区委員会が執行機関となり青少年の健全育成活動を担っている。両機関は、表裏一体・相互補完の関係をもって青少年の健全育成に資することを企図している。これら緊密な連携、丁寧な情報交換が最終的に区長への答申で区政に適切に反映されることが期待される。

近年の子供への虐待に鑑みるに、青少年の健全育成に関連して虐待防止に有効な施策が必要であると考え。虐待を受けている子供にとって、学校は学びの場であるとともに逃げ込む場所であると考え、周りの人間、学校が子供を見守る続けることが重要であると考え。青少年健全育成地区委員会の活動は、見守り活動の一環と評価され、そこでの活動は子供たちに達成感の獲得による自己肯定感の高まり、社会性の醸成等、高く評価されるべき草の根活動と評価すべきものであり、この活動を支える高齢者には区政功労者表彰をはじめ表彰制度で報いる等、区に配意してほしいと考える。

次に、施策「児童・生徒の健康増進」については、医師会等の関係機関と連携して法定事業である各種検診を実施していることを確認した。今後とも、関係機関との連携を深めて、小・中学時代の成長に着目した栄養と健康づくりの情報を保護者に積極的に展開し、施策を推進していくことを期待する。事務事業名 120900-008「学校医報酬(特別支援学校)」において、区民意識意向調査「子どもたちのたくましく生きる力」が育まれていると「感じる」割合が引用されているが、これは就学生の保護者を対象にしたものではなく一般的に聴取されたものである。アンケートは的確なターゲティングと質問により合理的な測定効果が期待できるものであり、普段就学生と接しているわけでない区民の感想めいたものを引用することは不適當であり、再考を求めたい。

区だけで達成するのが困難な最終アウトカムには推進力としてパートナーシップの活用が必須条件であり、高い信頼性のある区と区民を協働させ、各関係者・機関の機能・限界を前提とした具体的な役割分担に基づく新たな強化策の策定を検討すべきと考える。各施策において達成に不可欠なパートナーシップについて各担当課は抽象的に捉えることなく、区の役割とパートナーシップの実像を踏まえたより具体的な指標策定が行われないと施策の進捗把握が難しいと考える。しかしながら、現時点においては高い理念表明が抽象的な概念・目標設定に止まり施策の進捗を測る指標が具体的な数値基準にできていないのではないかと感じる。

政策評価で毎年感じることは担当課の所管事項から発案された指標が現行の事務事業のアウトプット設定に止まっていることであり、アウトカムの設定を進めるべきである。また、担当課所管事項だけでは施策に限界があり総合的な施策策定に繋がりにくく、残念ながら政策の裏付けとなる施策の融合性が感じられず、今年度の施策にそれを強く感じた。さらに、数値基準で十分に施策の進捗を評価できない場合は、利用者アンケートを収集することで定性的な評価により補完することを検討すべきであると考え。

今後、区政の全体最適化を図っていくには、予算統制に加え関連する基本目標や施策を有機的に関連づけて横串に刺すプランニングが不可欠と考える。区は、地域の活性化における行政の役割として情報等様々な結節点になりうる存在であり、区民からの信任性をバックとしたコーディネート機能を果たすことで今まで以上に貢献できる分野もあると思うところであり、また期待もしている。

令和5年度の外部評価を終えて

委員 水村由貴子

行政活動の成果を識者と区民で評価し、今後の行政活動の改善や向上に繋げて行くという行政評価制度。「板橋区基本計画 2025」に掲げる 68 施策と、その施策を構成する事務事業のうち、今回は教育委員会関連と、予防対策課、健康推進課、感染症対策課が評価対象となった。結論から言えば、私の担当した予防対策課、健康推進課、感染症対策課では、区民への健康づくり、また感染症の発生予防・まん延予防に向けての取組を順調に進めているという印象を受けた。

はじめに視察で尋ねた保健所では、コロナ禍でのワクチン接種のデータ管理などで多くの人員を要したことを目の当たりにし、時期を問わず流行する感染症に対しての予防・感染防止に尽力する姿勢に頭が下がる思いだった。感染症は予告なしに到来するものであり、感染経路も様々。晩年に結核を発症した母は戦前生まれで、感染症の流行やそれに伴う死亡率が高い水準にあった時代を過ごしているが、そうした年代の高齢者のみならず、海外からの留学生・労働者の人々から持ち込まれるケースも多いと聞いて、日本語学校の結核定期健康診断の実施を初めて知り、改めて検診や予防接種の重要性を感じた。

こころの健康づくりの推進では、「ひきこもり相談」と「ゲートキーパーの養成」についてのヒアリングを行ったが、いずれも人間の命に係わる大切な取組であることから、当事者家族同士や地域におけるネットワークの強化に向けて引き続き力を入れて欲しいと切望する。特に、ゲートキーパーについては隣人同士ひいては家族間でも関わりを持たないことが増加している現代社会に於いて、区が率先して各自治体や多くの区民に知らせて行って欲しい取組だ。このことは、健康推進課のヒアリングの際に配られた『いのちを支える地域づくり計画 2025～板橋区自殺予防対策～』の中にあるように、区職員、区民、区立小中学校の生活指導主任などを対象とした研修が行われており、さらに今後、企業や町会、介護事業者等に出張での研修が開催されていくと聞いて、大いに期待している。

ヒアリングを行うにあたっての各所属担当の方々の準備や説明への姿勢は、とても好感が持てた。また、その際に説明を受けた、ひとつの「課」にとどまらず、福祉・教育・健康など各部署との連携を行っていくという体制づくりは、とても評価できるものである。今後、私は一区民として、地域住民のゲートキーパー研修を受けてみたいという思いを持ったが、指針はもちろん、その施策を実行してみてどのような声を受け、可能性を感じられたかのアウトカムは各方面から随時、収集して吟味して欲しい。手応えが無いものについては見直しも必要かもしれない。

また教育委員会関連を含め、今回の評価対象では、「何を目標に数値化するのか」「誰が誰(何)のために行うのか」「目標自体が時代に合っているか」など、数字で結果を表記するだけでは成果が確認できないものが多数指摘された。教育施策やこころの健康づくりには数値化では表せない種類の事項も多く、アウトカムの記載には今後も注視していきたい。

行政評価委員会の初めて公募委員を体験してみて、認識できていない施策を鑑みるなど、外部評価の難しさを実感した。しかし、識者と区民でのこの委員会は、今後も区の発展のために実りあるものとして捉えて間違いないと実感した。

<参考資料>

1 行政評価委員名簿

	氏 名	現 職 等	グループ
委員長	くら た なお みち 倉 田 直 道	工学院大学名誉教授	A
副委員長	むら やま ひろ し 村 山 洋 史	東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム・研究副部長	C
委 員	きた がき たけ ひさ 北 垣 武 久	(有) ヒューリッドコンサルティング 代表取締役	B
委 員	はな わ むね のり 花 輪 宗 命	大東文化大学名誉教授	A
委 員	いの うえ けい し 井 上 恵 資	公募区民委員	A
委 員	か い だ ひろ き 甲 斐 田 洋 希	公募区民委員	B
委 員	みず むら ゆ き こ 水 村 由 貴 子	公募区民委員	C

2 行政評価委員会等開催状況

開催日時	会議名	内容等
令和5年3月24日(金) 14時00分～15時00分	第5回行政評価委員会 (令和4年度)	・令和5年度行政評価の進め方
令和5年5月26日(金) 10時00分～12時00分	第1回行政評価委員会 (令和5年度)	・外部評価対象施策の決定 ・公開ヒアリングの進め方
令和5年6月1日(木)・ 2日(金)・7日(水)	評価関連施設の視察	・各委員が3グループに分かれ、実施 (各半日)
令和5年6月15日(木)・ 16日(金)・21日(水)	公開ヒアリング	・各委員が3グループに分かれ、約8 時間実施
令和5年7月5日(水) 9時00分～12時00分	第2回行政評価委員会	・行政評価委員会報告書について ・公開ヒアリングの結果報告
令和5年8月2日(水) 14時00分～16時00分	区長との懇談会等・ 第3回行政評価委員会	・令和5年度外部評価の総括